



カンドゥーで体験できる仕事のイメージ。放送局や航空会社など
実在する企業がアクティビティを提供

(タイトル写真：イオンモール キッズドリーム合同会社)



地図にふれよう！活動報告

カンドゥーでのお仕事体験「マップクリエイターになろう！」

帝国書院 開発部

千葉県千葉市にあるカンドゥーは、イオンモール キッズドリーム合同会社が運営する、「親子3世代で楽しめる仕事体験テーマパーク」である。本格的なセットのもと、パイロットやモデルなど人気の仕事をはじめ、さまざまな仕事を本物さながらのコスチュームを着て体験することができる。

2017（平成29）年4月19日（水）～5月7日（日）の19日間、帝国書院もカンドゥーに「マップクリエイター」のアクティビティを出展した。



「マップクリエイター」のブース

カンドゥーの参加者は「3世代」をコンセプトにしていることもあって、幼稚園、保育園の年少～小学生と幅広い。そのようななかには、まずは「わたしたちの住むまち」の学習に役だてられるようなアクティビティにしたいという思いがあった。そのため「マップクリエイター」の仕事は、カンドゥーの街を歩いて地図記号を確認しながら「病院」や「警察」がどこにあるのか、どのような仕

事なのかを学び、そのほかにも危険な場所、例えば、出合い頭にぶつかりそうな曲がり角などを見つけて、お互いに確認し合うという内容に設定した。

本稿では、小学校4年生の児童に、実際にこのアクティビティを体験してもらったようすをレポートする。

ブースを訪れた参加者はまず、衣装を身につけてから説明をうける。

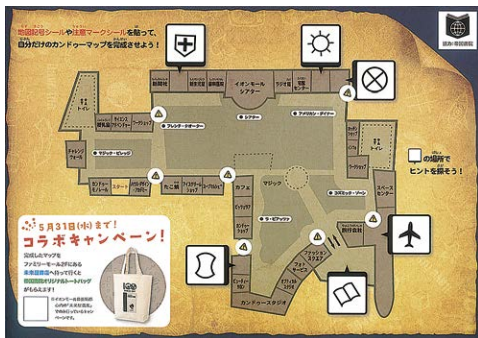
「どういうときに地図を見ますか」という問いかけに対し、子どもたちは元気よく手をあげ、「目的地への行き方がわからないとき」と、壁の掛地図を指さしていた。

このあと参加者には1人1枚ずつパーク内の地図と地図記号のシールが配られる。

次に参加者はカンドゥーのパーク内のジオラマを見ながら、自分が現在いる場所がどこ



ジオラマでカンドゥーの街を確認する



パーク内の地図。シールを貼って完成したもの

なのか、ジオラマと手もとの地図とで照らし合わせる。そのことで実際の建物や店と、自分が持っている紙の地図が、同じことを示しているということに気づかせる。

パーク内のあちこちに貼ってある地図記号を見つけると「あ！ あったよ！」と子どもたちは駆け出していた。見つけた場所が自分の手元の地図ではどこにあたるのか確認し、その場所に同じ地図記号のシールを貼っていく。地図記号を知っているか聞くと、「学校で習ったからもう覚えているよ！」という返事が返ってきた。



パーク内の地図記号を手元の地図で確認してシールを貼る

いろいろな地図記号									
Y	消防署	文	小中学校	血	博物館	U	銀行	☆	史跡
⊗	警察署	⊗	高等学校	📖	図書館	🎵	電波塔		田
X	天幕	🏠	病院	🏠	城跡	☀️	灯台	∨	崖
📮	郵便局	🏯	神社	⚙️	工場	🚂	風車	🌳	果樹園
🏢	市役所	🏯	寺院	⚙️	発電所等	🌊	温泉	🌳	紅葉樹林
🚒	消防署	🏠	裁判所	🏠	老人ホーム	🌊	漁港	🌳	針葉樹林

最初の説明では、地図にはいろいろな意味をもつ記号があることを確認する



完成した地図をながめる

そのほかにも、飛び出したら危ない街角や機材が置いてあるところ、熱い料理が通る廊下など、子どもたちが「ここは危ない」と思う場所に危険を表すシールも貼っていく。

パーク内を一周し、ブースに戻ってくると自分だけのマップが完成している。普段の生活でも、通学路にどんな建物があるのか、とび出したら危ない場所がないか確認してみようとうながし、アクティビティは終了である。

子どもたちは元気にあいさつをして、自分の地図を大事に抱えながら、次のブースに向かっていった。アクティビティに要した時間は30分程度であった。

実際に体験した児童は、「カンドウの街の中をいろいろまわって、危ないところや(トイレの場所など)わからなかったことがわかりました。3年生のときに地図記号を習っていたので、地図記号がある場所ですぐに何の場所なのかがわかり、うれしかったです。」と話してくれた。

今回の出展を通じ、就学前や地図を学習する前の子どもたちにも、身のまわりの建物などが地図で表せること、地図で表すとほかの人にも自分が見てきたものを伝えやすいことなどを伝えることができた。

今後もこのような機会を通じ、遊びながら地図に親しんでもらい、いざ学校で地図の学習が始まった際や地図帳を手にした際にも、楽しんで学べるような体験を提供できるよう努めていきたい。

(本文中 資料：イオンモール キッズドリーム合同会社、写真：帝国書院)